HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国における日本語専攻学習者の動機減退構造 ： 社会・教育環境との関連から［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	許, 晴
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(学術)
Dissertation Number	甲第13628号
Issue Date	2019-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74405
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	doctoral thesis
File Information	Xu_Qing_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（学術）　　氏名：許　晴

審査委員　主査　教授　小林　由子
副査　教授　河合　靖
副査　准教授　山田　智久

学位論文題名
中国における日本語専攻学習者の動機減退構造
−社会・教育環境との関連から−

本研究は、中国の大学で日本語を主専攻とする大学生に対して、日本語学習動機の減退について大規模な調査を行い、社会環境との関連から動機減退の要因を明らかにしたものである。

中国の日本語学習者数は海外において第１位であるが、近年、高等教育での学習者数が減少傾向にあり、日本語学習動機の減退が問題となっている。また、中国は広大な国土を有し教育の地域間格差が大きい。さらに、都市戸籍・農村戸籍という独自の戸籍制度および中国独自の大学入試制度が学習動機に影響を及ぼしていると考えられる。

本研究が評価される点の第一は、中国の社会環境と大学入試制度について詳細に解説し、動機づけ・動機減退に関する先行研究を入念にレビューしたうえで、これまであまり明らかにされてこなかった日本語学習動機の減退と社会環境の関連を実証的に明らかにしたことである。学習動機は環境によって変わりうるものとされているが、従来の研究では「その国の日本語学習者はどのような動機づけを持っているか」を１回のみの質問紙調査で分類するような静的なものが多かった。また、中国における日本語学習動機づけ研究はあまりなく、調査対象となった地域や大学も限定されている。さらに、動機づけについての研究は多いが、動機減退についての研究は少ない。本研究では、異なる属性をもつ地域・大学を対象に調査を行い、中国における日本語学習動機減退の実態と要因を示した。その結果は、従来の研究には見られないものであった。

第二は、大学の所在地と学習者の出身地・戸籍という観点から中国における学習動機減退を分析したことである。東部・大都市とその他の地方には教育格差があり、同じ地方であっても都市戸籍と農村戸籍の間にも教育格差がある。教育の地域間格差については教育発展指数が指標となっている。もっとも教育発展指数

が高い上海では出身県の差異が学習動機減退に関わっているが、教育発展指数が中程度の内陸の湖南省では出身県よりも都市戸籍か農村戸籍かという戸籍の差異の関与が見られた。また、上海の大学に進学した対象者のうち上海出身者には優越感が、地方出身者には劣等感が見られ、学習動機減退につながっていると考えられる。

第三は、中国の日本語学習者の学習動機減退要因として「専攻選択上の問題」があることを因子分析から明らかにし、大学入試制度と学習動機減退の関連を示したことである。中国では大学入試は全国統一大学入学試験の点数と各省（日本の県に相当）に配分される各大学の入学可能人数により進学する大学と専攻が決まる。そして、「専攻の振り分け」制度のもとで志望校の自分が志望しなかった専攻に振り分けられることがある。日本語専攻を志望した対象者と志望しなかったが日本語専攻に振り分けられた対象者では動機減退の要因が異なった。日本語専攻を志望しなかった学習者は、当初は努力して学ぶ姿勢があるものの学習成果が伴わず学習動機が減退する。一方、日本語学習動機減退が少ないと予測された日本語専攻を志望した学生にも予測に反して少なからず動機減退が見られ、「専攻選択を真剣に考えなかった」「日本語学習を強制されたくない」など、日本語専攻を志望しなかった対象者とは異なる動機減退要因が見られた。

中国の大学生は、都市・農村戸籍、出身県の教育レベルと進学先の高低差、進学した専攻を志望したか否かで 12 種類に分類することができる。このうち最も深刻なのは農村戸籍で教育レベルの低い地域出身の志望しなかった専攻に進学した者であるが、都市戸籍で教育レベルの高い地域の出身者にも異なる動機減退要因が存在する。中国の大学には異なる社会的・教育的な背景をもつ学習者が混在しており、それらの差異と動機減退の可能性を考慮しながら教育にあたる必要がある。

審査における質疑応答では、先行研究のレビューが非常に精密に行われていることが評価された。中国の社会的事情や先行研究、調査についての確認的な質問が多くなされたが応答は適確であった。社会的な制約が大きい中国での研究成果の適用可能性についても質問があったが、現状では、社会環境による学習者の多様性と動機減退の問題について教師にあまり理解されていないため，教育場面での有効性は期待できる。また、今回の研究では取り上げられなかった民族性などとの関連についても今後研究が発展する余地がある。

本研究は、入念な先行研究のレビューおよび社会的文脈と関連づけた学習動機減退についての広範囲な調査により、社会的な要因と日本語学習者の学習動機減退の関連を明らかにしたものとして画期的であり、中国における日本語教育に貢献するものである。

以上の点から、本審査委員会は、許晴氏が、北海道大学博士（学術）を授与される資格を有すると結論する。

（以上）